

第三条 新法第三十四条第一項及び第三十九条の規定は、この法律の施行前に、第二審である高等裁判所又は地方裁判所における口頭弁論が終結した事件及び簡易裁判所の判決又は地方裁判所が第一審としてした判決に対して上告をする権利を留保して控訴をしない旨の合意をした事件については、適用しない。

2 新法第四十条から第四十二条までの規定は、この法律の施行前に、訴訟の完結した事件、第二審である高等裁判所又は地方裁判所における口頭弁論が終結した事件及び簡易裁判所の判決又は地方裁判所が第一審としてした判決に対して上告をする権利を留保して控訴をしない旨の合意をした事件については、適用しない。

(施行前に犯した犯罪行為により生じた財産等に関する経過措置)

第四条 この法律の施行の日が犯罪の国際化及び組織化並びに情報処理の高度化に対処するため刑法等の一部を改正する法律（平成十九年法律第 号）の施行の日後となった場合には、

組織的な犯罪の処罰及び犯罪収益の規制等に関する法律（平成十一年法律第百三十六号）第九條第一項から第三項まで、第十條及び第十一條の規定は、この法律の施行前に財産上の不正な利益を得る目的で犯した旧法第五十六條の罪の犯罪行為（日本国外で行われたとされたならば行為が日本国内において行われたとしたならば同条の罪に当たり、かつ、当該行為地の法令により罪に当たるものを含む。）により生じ、若しくは当該犯罪行為により得た財産又は当該犯罪行為の報酬として得た財産に関してこの法律の施行後にした行為に対しても、適用する。この場合において、これらの財産は、組織的な犯罪の処罰及び犯罪収益の規制等に関する法律第二條第二項第一号の犯罪収益とみなす。

(罰則に関する経過措置)

第五条 この法律の施行前に犯した罪の公訴時効の期間については、新法第七十三條第三項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(政令への委任)

第六条 附則第二条から前条までに規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

(検討)

第七条 政府は、この法律の施行後五年を経過した場合において、新法の施行の状況を勘案し、必要があると認めるときは、新法の規定について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。

(独立行政法人種苗管理センター法及び独立行政法人家畜改良センター法の一部改正)

第八条 次に掲げる法律の規定中、「第五十三條の

第二項」を、「第六十三條第一項」に改める。

一 独立行政法人種苗管理センター法（平成十一年法律第百八十四号）第十一條第二項第一号

二 独立行政法人家畜改良センター法（平成十一年法律第百八十五号）第十一條第二項第二号

農林水産大臣臨時代理

国務大臣 若林 正俊

内閣総理大臣 安倍 晋三

自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法の一部を改正する法律をここに公布する。

御 名 御 璽

平成十九年五月十八日

内閣総理大臣 安倍 晋三

法律第五十号

自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法の一部を改正する法律

自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法（平成四年法律第七十号）の一部を次のように改正する。

題名の次に次の目次及び章名を付する。

目次

第一章 総則（第一条―第五条）

第二章 自動車排出窒素酸化物等の総量の削減に関する基本方針及び計画（第六条―第十一条）

第三章 自動車排出窒素酸化物等の総量の削減に関する特別措置

第一節 窒素酸化物排出自動車等に関する措置（第十二条―第十四条）

第二節 窒素酸化物重点対策地区等に関する措置（第十五条―第三十条）

第三節 事業者に関する措置（第三十一条―第四十三条）

第四章 雑則（第四十四条―第四十八条）

第五章 罰則（第四十九条―第五十二条）

附則

第一章 総則

第五条の次に次の章名を付する。

第二章 自動車排出窒素酸化物等の総量の削減に関する基本方針及び計画

第六条第二項第二号中、「窒素酸化物総量削減計画の策定」の下に、「第十五條第一項の窒素酸化物重点対策地区の指定」を加え、「第十五條第一項」を、「第三十一條第一項」に改め、同条第三項中、「該当する」を、「該当し、又は該当しなくなつた」に改め、「定める政令」の下に、「の制定又は改廃」を加える。

第七条第六項中、「変更」の下に、「（第十六条第一項の窒素酸化物重点対策計画を策定し、又は変更する場合を含む。）」を加える。

第八条第二項第二号中、「粒子状物質総量削減計画の策定」の下に、「第十七条第一項の粒子状物質重点対策地区の指定」を加え、「第十五條第一項」を、「第三十一條第一項」に改め、同条第三項中、「該当する」を、「該当し、又は該当しなくなつた」に改める。

第九条第三項中、「変更」の下に、「（第十八條第一項の粒子状物質重点対策計画を策定し、又は変更する場合を含む。）」を加える。

第三章 自動車排出窒素酸化物等の総量の削減に関する特別措置

第一節 窒素酸化物排出自動車等に関する措置

第十二條第一項中、「第十七條」を、「第三十三條」に改める。

第三十條を第五十一條とし、同条の次に次の一条を加える。

第五十二條 第二十三條第一項若しくは第五項又は第五十七條第三項の規定による届出をせず、又は虚偽の届出をした者は、十万円以下の過料に処する。

第二十九條第二号中、「第十八條又は第二十條第一項（これらの規定を第二十二條第一項」を、「第三十四條、第三十七條若しくは第四十一條第一項から第四項まで（これらの規定を第四十三條第一項」に、「第二十條第一項（第二十二條第一項」を、「第四十一條第一項から第四項まで（第四十三條第一項」に改め、同条を同条第七号とし、同条第一号中、「第十七條（第二十二條第一項」を、「第三十三條又は第三十六條第一項（これらの規定を第四十三條第一項」に改め、同条を同条第六号とし、同条の前に次の五号を加える。

一 第二十條第一項、第二十一條第一項又は第二十三條第二項の規定による届出をせず、又は虚偽の届出をした者

二 第二十條第二項（第二十三條第三項、第二十四條第五項及び第二十五條第五項において準用する場合を含む。）の添付書類であつて、虚偽の記載のあるものを提出した者

三 第二十條第三項、第二十三條第四項又は第二十四條第六項の規定に違反した者

四 第二十四條第四項又は第二十五條第四項の規定による届出をする場合において虚偽の届出をした者

五 第二十八條の規定による報告をせず、又は虚偽の報告をした者

第二十九條を第五十條とする。

第二十八條の前の見出しを削り、同条中、「第十九條第三項（第二十二條第一項」を、「第三十五條第三項（第四十三條第一項」に改め、同条を第四十九條とする。

第二十七條を第四十八條とし、同条の次に次の章名を付する。

第五章 罰則

第二十六條を第四十七條とし、第二十三條から第二十五條までを二十一條ずつ繰り下げる。

第二十二條第一項中（平成元年法律第八十二號）を削り、第十六條から第十九條まで及び第二十條第一項」を、「第三十一條から第三十五條まで、第三十六條第一項、第三十七條から第三十九條まで及び第四十一條第一項から第四項まで」に、「第十六條、第十八條、第十九條及び第二十條第一項」を、「第三十二條、第三十四條、第三十五條、第三十九條第二項及び第四十一條第一項から第四項までの規定」に、並びに第十七條」を、「第三十三條